別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	専門職大学の設置	
フリガナ 設置者	ヤマガタケン 山形県	
フリガナ 大学の名称	トウホクノウリンセンモンショクダイガク 東北農林専門職大学（Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry）	
大学本部の位置	山形県新庄市大字角沢1366	
大学の目的	農林業現場の先進的な経営や高度な生産技術を生きた教材としながら、経営感覚と現場感覚に優れ、理論に裏打ちされた実践力を備えた農林業人材を育成するとともに、農林業に関する研究の成果を地域に還元し、本県、東北の農林業の発展と地域の活性化に寄与する。	
新設学部等の目的	農林業の生産技術を身に付け、マーケティング等の知見や国際情勢などの広い視野を持ち、時代の変化に対応した経営戦略を構築でき、かつ、専門分野に留まらない知識・教養と課題解決策を提案できる力等を身に付け、地域をけん引できる人材を育成する。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	農林業経営学部 ［Faculty of Management for Agriculture and Forestry］							山形県新庄市大字角沢1366	
	農業経営学科 ［Department of Agricultural Management］	4	32	3年次 2	132	農業学士(専門職) ［Bachelor of Agriculture］	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次		
	森林業経営学科 ［Department of Forestry Management］	4	8	3年次 2	36	森林業学士(専門職) ［Bachelor of Forestry］	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次		
	計		40	3年次 4	168				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	山形県立農林大学校 養成部　〔定員減〕　（△20）（令和６年４月）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	備考
		講義	演習	実験・実習	計		
	農林業経営学部 農業経営学科	47 科目	10 科目	13 科目	70 科目	127単位	
	農林業経営学部 森林業経営学科	45 科目	10 科目	10 科目	65科目	132単位	

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	備考
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	農林業経営学部 農業経営学科	9 (9)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	23 (23)	
		農林業経営学部 森林業経営学科	4 (4)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	23 (23)	
		計	13 (13)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	― (―)	
	既設分	該当なし	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	
			― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	
		計	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	― (―)	
	合計		13 (13)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	― (―)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	人 16 (16)	人 0 (0)	人 16 (16)	
	技術職員	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
	図書館専門職員	4 (4)	0 (0)	4 (4)	
	その他の職員	10 (10)	0 (0)	10 (10)	
	計	35 (35)	0 (0)	35 (35)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	0 ㎡	21,923.70㎡	0 ㎡	21,923.70㎡	山形県立農林大学校（専修学校、収容定員80人、面積基準なし（校舎等を保有するのに必要な面積の校地を有すること））と共用
	運動場用地	0 ㎡	14,578.00㎡	0 ㎡	14,578.00㎡	
	小計	0 ㎡	36,501.70㎡	0 ㎡	36,501.70㎡	
	その他	0 ㎡	484,372.96㎡	2,613.88㎡	486,986.84㎡	
	合計	0 ㎡	520,874.66㎡	2,613.88㎡	523,488.54㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	2,288.69 ㎡ (2,288.69 ㎡)	4,270.82 ㎡ (4,270.82 ㎡)	646.12 ㎡ (646.12 ㎡)	7,205.63 ㎡ (7,205.63 ㎡)	山形県立農林大学校（収容定員80名、必要面積380㎡）と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	5 室	12 室	2 室	1 室 （補助職員 0人）	0 室 （補助職員 0人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	農林業経営学部 農業経営学科	20	室
	農林業経営学部 森林業経営学科	10	室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	農林業経営学部	14,216〔1,850〕 (11,672〔1,790〕)	79〔24〕 (79〔24〕)	9〔9〕 (9〔9〕)	120 (120)	329 (329)	0 (0)	大学全体の数
	計	14,216〔1,850〕 (11,672〔1,790〕)	79〔24〕 (79〔24〕)	9〔9〕 (9〔9〕)	120 (120)	329 (329)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	428.43 ㎡	36	50,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	983 ㎡	－	－

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む 図書及び設備は附属農林大学校と共用
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－千円	－千円	
	図書購入費	76,686千円	10,214千円	10,214千円	10,214千円	10,214千円	－千円	－千円	
	設備購入費	251,793千円	700千円	700千円	700千円	700千円	－千円	－千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	818 千円	536 千円	536 千円	536 千円	－千円	－千円	※学生納付金は、上段が山形県内出身者、下段が山形県外出身者
	1,100 千円	536 千円	536 千円	536 千円	－千円	－千円	

学生納付金以外の維持方法の概要	県費、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	山形県立農林大学校								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	養成部	年 2	人 60	年次人 －	人 120	専門士（農業専門課程）	倍 1.01	昭和29年度	山形県新庄市大字角沢1366	※令和６年度入学定員減（△20人）

附属施設の概要	［農場］ 名　称：実習圃場 所在地：山形県新庄市大字角沢 規模等：153.5a 名　称：トラクター練習場 所在地：山形県新庄市大字角沢 規模等：建物43㎡、土地12,872㎡ ［飼育場］ 名　称：畜産実習棟 所在地：山形県新庄市大字角沢 規模等：建物710㎡ 名　称：牧場 所在地：山形県新庄市大字角沢 規模等：土地180a ［演習林］ 名　称：学内演習林 所在地：山形県新庄市大字角沢 規模等：森林面積22.7ha 名　称：山形県真室川県有林 所在地：山形県真室川町 規模等：森林面積348.24ha 名　称：山形県源流の森 所在地：山形県飯豊町 規模等：森林面積79.26ha	

（注）

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農林業経営学部農業経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
①基礎科目	地域学の科目	山形・東北の風土・伝統文化	1前	2			○								兼1	
		哲学と東北	3前	2			○								兼1	メディア
	コミュニケーション能力	英語基礎	1前			2	○								兼1	
		コミュニケーション論	1前	2			○								兼1	メディア
		ビジネス英語Ⅰ	1後	2			○								兼1	
		ビジネス英語Ⅱ	2前	2			○								兼1	
	一般教養（人間と自然・スポーツ・社会・情報）	スポーツ	1前	1					○						兼1	メディア
		SDGsと倫理	1後	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
		気象・気候学概論	1後		2		○								兼1	メディア
		統計学	1後		2		○								兼1	
		情報活用	2前	1					○						兼1	
		政治学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		社会学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		法律学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		経済学入門	2後	2			○			1						
		小計（15科目）	―	16	10	2	―			2	0	0	0	0	兼11	―
②職業専門科目	生産理論・技術	土壌・肥料学	1前	2			○				1					
		農業概論	1前	4			○			9	7	1				オムニバス
		耕畜連携論	1前	1			○			1		1				オムニバス
		農業概論演習	1後	2				○		9	7	3				オムニバス
		植物保護学	1後		2		○			1						
		家畜衛生学	1後		2		○				1					
		圃場実習Ⅰ	1通	8					○	5	6	2				オムニバス
		先端農業技術論	2後	1			○			1						
		栽培各論（稲作）	2通		2		○			1	2					オムニバス
		栽培各論（果樹）	2通		2		○			1	2					オムニバス
		栽培各論（野菜・花き）	2通		2		○			2						オムニバス
		飼育各論（畜産）	2通		2		○				2					オムニバス
		圃場実習Ⅱ（稲作）	2通		8				○	2	2					共同
		圃場実習Ⅱ（果樹）	2通		8				○	1	2					共同
		圃場実習Ⅱ（野菜・花き）	2通		8				○	3		1				共同
		圃場実習Ⅱ（畜産）	2通		8				○		2	1				共同
	経営全般	農業実地体験実習	1通	1					○	2		1				共同
		農業生産工程・食品衛生論	2前	2			○					1				
		SDGsと農業・森林業	2後	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
		国際農業論	2後	1			○			1						
		国際農業・森林業実習	2・3後			2			○	1					兼2	共同
		臨地実務実習Ⅰ（生産管理等）	2通	8					臨	9	7	3				
		農業政策	3前	2			○			1						
		組織マネジメント論	3前	2			○				1					
		農業経済学	3前	2			○			1						
		農業知的財産論	3前	1			○								兼1	メディア
		マーケティング論	3後	2			○			2	1					オムニバス・共同（一部）
		農業経営分析・計画	3後	2			○			3	1					オムニバス
		税制・簿記論	3後	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅱ（経営管理等）	3通	8					臨	9	7	3				
		簿記各論	4前	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅲ（経営総合）	4通	8					臨	9	7	3				
	地域課題解決能力	東北の稲作	2通		2		○			1	2					オムニバス・共同（一部）
		東北の果樹	2通		2		○			1	2					オムニバス・共同（一部）
		東北の野菜・花き	2通		2		○			2		1				オムニバス・共同（一部）
		東北の畜産	2通		2		○				2	1				オムニバス・共同（一部）
		農山村活性化論	3通	2			○			4	1					オムニバス・共同（一部）
		農山村活性化論演習	3通	2				○		4	1					共同
		小計（38科目）	―	65	52	2	―			9	7	3	0	0	兼4	―

③展開科目	応用的・創造的能力	食品製造・販売	2後	2			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
		食品製造・販売実習	3通	2					○	1		1				共同
		デザイン論	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		金融論	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		発酵学・醸造学	1・2・3・4前		2		○								兼2	メディアオムニバス・共同（一部）隔年
		建築学	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		社会福祉論	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス・共同（一部）隔年
		栄養学	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		山形・東北観光学	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年
		デザイン論演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		金融論演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		発酵学・醸造学演習	1・2・3・4後		2			○							兼2	オムニバス隔年
		建築学演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		社会福祉論演習	1・2・3・4後		2			○							兼2	オムニバス・共同（一部）隔年
		栄養学演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		山形・東北観光学演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		小計（16科目）	－	4	28	0	－			1	0	1	0	0	兼9	－
④総合科目	総合的能力	経営分析・計画演習	4通	4				○		9	7	3				共同
		小計（1科目）	－	4	0	0	－			9	7	3	0	0	0	－
合計（70科目）			－	89	90	4	－			9	7	3	0	0	兼23	－

学位又は称号	農業学士（専門職）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
＜卒業要件＞ 基礎科目より20単位、職業専門科目より79単位、展開科目より24単位、総合科目4単位を修得し、合計127単位とする。 (基礎科目)必修16単位と、「気象・気候学概論」又は「統計学」から2単位、「政治学概論」、「社会学概論」又は「法律学概論」から2単位を含む20単位 (職業専門科目)79単位 ■生産理論・技術 　必修18単位と、「植物保護学」又は「家畜衛生学」から2単位、「栽培各論（稲作）」、「栽培各論（果樹）」、「栽培各論（野菜・花き）」又は「飼育各論(畜産)」から2単位、「圃場実習Ⅱ（稲作）」、「圃場実習Ⅱ（果樹）」、「圃場実習Ⅱ（野菜・花き）」又は「圃場実習Ⅱ（畜産）」から8単位を含む30単位 ■経営全般　必修43単位 ■地域課題解決能力 　必修4単位と、「東北の稲作」、「東北の果樹」、「東北の野菜・花	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週

き」又は「東北の畜産」から2単位を含む6単位 (展開科目)必修4単位と、「デザイン論」・「デザイン論演習」、「金融論」・「金融論演習」、「発酵学・醸造学」・「発酵学・醸造学演習」、「建築学」・「建築学演習」、「社会福祉論」・「社会福祉論演習」、「栄養学」・「栄養学演習」又は「山形・東北観光学」・「山形・東北観光学演習」から20単位を含む24単位 (総合科目)必修4単位 (履修科目の登録の上限:46単位(年間))	1時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農林業経営学部森林業経営学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
①基礎科目	地域の特性	山形・東北の風土・伝統文化	1前	2			○								兼1	
		哲学と東北	3前	2			○								兼1	メディア
	コミュニケーション能力	英語基礎	1前			2	○								兼1	
		コミュニケーション論	1前	2			○								兼1	メディア
		ビジネス英語Ⅰ	1後	2			○								兼1	
		ビジネス英語Ⅱ	2前	2			○								兼1	
	一般教養（人間と自然・スポーツ・社会・情報）	スポーツ	1前	1					○						兼1	メディア
		SDGsと倫理	1後	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
		気象・気候学概論	1後		2		○								兼1	メディア
		統計学	1後		2		○				1					
		情報活用	2前	1					○		1					
		政治学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		社会学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		法律学概論	2前		2		○								兼1	メディア
		経済学入門	2後	2			○								兼1	
		小計（15科目）	－	16	10	2	－			1	1	0	0	0	兼11	－
②職業専門科目	生産理論・技術	森林土壌・樹木学	1前	2			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
		造林学	1前	2			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
		森林生産学	1前	2			○				1	1				オムニバス・共同（一部）
		森林労働安全衛生論	1前	1			○				1	1				オムニバス・共同（一部）
		非木材森林産品概論	1後	1			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
		森林保護学	1後	2			○			1		1				オムニバス・共同（一部）
		森林保全学	1後	2			○				1					
		演習林実習Ⅰ	1通	8					○	1	1	3				共同
		測量学	2前	2			○				1					
		森林情報学	2前	1			○				1					
		先端森林業技術論	2後	1			○				1					
		演習林実習Ⅱ	2通	8					○	1	1	3				共同
	経営全般	森林業実地体験実習	1通	1					○			3				オムニバス・共同（一部）
		木質科学概論	2前	2			○			1						
		SDGsと農業・森林業	2後	2			○			1					兼1	オムニバス・共同（一部）
		国際森林業論	2後	1			○			1	1					オムニバス・共同（一部）
		木材利活用論	2後	2			○			1						
		国際農業・森林業実習	2・3後			2			○		1	1			兼1	共同
		臨地実務実習Ⅰ（生産管理等）	2通	8					臨	4	2	3				
		森林環境政策	3前	2			○			1						
		組織マネジメント論	3前	2			○								兼1	
		森林経営管理学	3前	2			○			1						
		マーケティング論	3後	2			○								兼3	オムニバス・共同（一部）
		森林業経営分析・計画	3後	2			○			1						
		税制・簿記論	3後	1			○								兼2	オムニバス・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅱ（経営管理等）	3通	8					臨	4	2	3				
		木材加工・販売実習	3通	2					○	1						
		簿記各論	4前	1			○								兼2	オムニバス・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅲ（経営総合）	4通	8					臨	4	2	3				
	地域課題解決能力	東北の森林資源管理	2通		2		○					2				オムニバス・共同（一部）
		東北の森林資源利活用	2通		2		○			2		1				オムニバス・共同（一部）
		農山村活性化論	3通	2			○								兼5	オムニバス・共同（一部）
		農山村活性化論演習	3通	2				○							兼5	共同

		小計（33科目）	－	82	4	2	－			4	2	3	0	0	兼5	－
③展開科目	応用的・創造的能力	森林生態系サービス保全利用論	2前	2			○			2						オムニバス
		森林生態系サービス保全利用論演習	2後	2				○		2						オムニバス・共同（一部）
		デザイン論	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		金融論	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		発酵学・醸造学	1・3・4前		2		○								兼2	メディア オムニバス・共同（一部） 隔年
		建築学	1・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		社会福祉論	1・2・3・4前		2		○								兼2	オムニバス・共同（一部） 隔年
		栄養学	1・2・3・4前		2		○								兼1	メディア隔年
		山形・東北観光学	1・3・4前		2		○								兼1	隔年
		デザイン論演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	隔年
		金融論演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		発酵学・醸造学演習	1・3・4後		2			○							兼2	オムニバス隔年
		建築学演習	1・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		社会福祉論演習	1・2・3・4後		2			○							兼2	オムニバス・共同（一部） 隔年
		栄養学演習	1・2・3・4後		2			○							兼1	メディア隔年
		山形・東北観光学演習	1・3・4後		2			○							兼1	隔年
		小計（16科目）	－	4	28	0	－			2	0	0	0	0	兼9	－
④総合科目	総合的能力	経営分析・計画演習	4通	4				○		4	2	2				共同
		小計（1科目）	－	4	0	0	－			4	2	2	0	0	0	－
合計（65科目）			－	106	42	4	－			4	2	3	0	0	兼23	

学位又は称号	森林業学士（専門職）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
＜卒業要件＞ 基礎科目より20単位、職業専門科目より84単位、展開科目より24単位、総合科目4単位を修得し、合計132単位とする。 (基礎科目)必修16単位と、「気象・気候学概論」又は「統計学」から2単位、「政治学概論」、「社会学概論」又は「法律学概論」から2単位を含む20単位 (職業専門科目)84単位 ■生産理論・技術　必修32単位 ■経営全般　必修46単位 ■地域課題解決能力 　必修4単位と、「東北の森林資源管理」又は「東北の森林資源利活用」から2単位を含む6単位 (展開科目)必修4単位と、「デザイン論」・「デザイン論演習」、「金融論」・「金融論演習」、「発酵学・醸造学」・「発酵学・醸造学演	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週

習」、「建築学」・「建築学演習」、「社会福祉論」・「社会福祉論演習」、「栄養学」・「栄養学演習」又は「山形・東北観光学」・「山形・東北観光学演習」から20単位を含む24単位 (総合科目)必修4単位 (履修科目の登録の上限:46単位(年間))	1時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農林業経営学部農業経営学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
①基礎科目	地域等の特性	山形・東北の風土・伝統文化	本学が立地する山形県、東北地域が有する風土・伝統・文化・生活・産業等の背景やそこから受ける恩恵などについて理解することは、東北地方の一員として生きていくうえで重要である。本科目では、グループごとにテーマを決め、山形や東北地方の方言と伝統文化、歴史等に関する発表を行う。これらを通じ、山形及び東北地方の風土、歴史、伝統・文化、方言と農業及び森林業等との関わり等について学ぶ。	
		哲学と東北	地域が有する気候風土や歴史等の特徴が人の活動に及ぼす影響を哲学的な観点から考察することは、その地域を深く理解することに繋がる。本科目では、土地倫理・環境問題・世代間倫理等、我々が直面する諸問題について概説し、21世紀における社会のあるべき姿についての見通しを立てる。また、「東北」という地域の歴史とその特性に関して、上述の事柄と関連付けつつ理論化することも試みる。これらを通じ、農山村社会に生きた先達の思想（人生観や世界観）と背景に触れ、農山村社会に生きる者としての心構え（生きる糧、知恵と工夫など）について学ぶ。	
	コミュニケーション能力	英語基礎	グローバル化が進む中、多種多様な人々と交流するためには、英語を「読む、書く、話す、聞く」という基本的なコミュニケーション能力が求められる。本科目では、テキスト等を用い、これまで学習した英語を振り返り、「読む、書く、聞く、話す」という英語運用能力の基本を学び、英語の基礎的な理解に役立てる。	
		コミュニケーション論	社会人として、挨拶、言葉づかい、行動規範などの基本的なコミュニケーション力を持つことは必須である。本科目では、コミュニケーションのツールとして、対話、ディスカッション、プレゼンテーション等の技法について学ぶ。さらに、社会人や経営者として、農山村生活や消費者も含めた他者との円滑なコミュニケーション能力を養成するため、人間と言語・コミュニケーションの関係のあり方を学ぶ。	
		ビジネス英語Ⅰ	ビジネスを展開する上で、今後は国内のみならず、海外の市場へ目を向けていく必要がある。その場合、海外事業者との商談時等には実践的な英語によるコミュニケーション能力が求められる。本科目では、「読む、書く、聞く、話す」の英語４技能について、海外事業者との商談時の商品説明等の具体的なビジネスシーンを想定しながら、農林業分野に特有の言葉遣いも交えた実用的な商用英語について学ぶ。	
		ビジネス英語Ⅱ	ビジネスを海外展開していく場合、より実用的、実践的なビジネス英語によるコミュニケーション能力が求められる。本科目では、「ビジネス英語Ⅰ」に引き続き、ディスカッションやプレゼンテーションといった実践を通し、海外事業者との商談時の商品説明等の具体的なビジネスシーンを想定しながら、農林業分野に特有の言葉遣いも交えた実用的な商用英語について学ぶ。	
	一般教養	スポーツ	健康的な生活を送るための方法の一つとして、スポーツの実践を通して、体力の向上と維持増進を図ることが重要である。本科目では、スポーツや体力トレーニングなどの実習を通して健康的な身体づくりについて学び、身体を動かす楽しさや生涯にわたって運動することの大切さを理解し、運動による健康と体力づくりに必要な知識と実践手法について学ぶ。	
		SDGsと倫理	SDGsはすべての産業活動と密接に関連している。世界各国が、政府、民間を問わずSDGsの達成に向けて行動し、持続可能な経済、社会の構築を目指している。SDGsに掲げる17の目標、169のターゲットの多くが、私達の倫理観と行動様式に関わっている。本科目においては、様々な環境問題等の社会的課題、SDGsの取組と倫理的な側面に関する基礎的な考え方や知識について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （4 胡　柏／7回） SDGsの理念と倫理、公正な社会の実現等について概説する。 （21 堀　靖人／7回） SDGsと環境倫理、持続可能な森林経営のSDGsにおける意義等について概説する。 （4 胡　柏、21 堀　靖人／1回）（共同） 授業のまとめと総括を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		気象・気候学概論	人や生物の活動は気象や気候の影響を強く受けるものであり、気象・気候と生物の生育や気象災害との関係を理解することは重要である。本科目では、気象や気候に関する基礎的な知識及び近年の気候変動による気象災害の現状と対策について学ぶ。具体的には、気象現象の仕組み、地表面の熱収支、局地的な気象現象、気象災害（暴風、洪水、干ばつ、冷害など）について学ぶ。	

	長（人間と自然・スポーツ・社会・情報）	統計学	統計学は、ある工夫をした結果、例えば生産量、品質、成長量・生存率が変化した場合に、これらの現象を客観的に判断し、対外的に説明できるツールを提供する。また、統計学は、様々な工夫が結果に及ぼした程度、予測の可否等に対しても有用なツールを提供する。本科目では、実用場面での使用を想定しながら、統計ツールの取扱いに関する基礎的な知識について学ぶ。	
		情報活用	ネットワークや表計算ソフトなどを利用した情報の収集・分析は、経営判断やプレゼンテーションなどを行う際の資料作成等に欠かせない技術である。本科目では、グラフ作成や関数を用いたデータ処理など、経営者として必要となる実践的な情報処理能力を身に付けるため、情報やデータの処理・分析方法及び加工・活用方法について学ぶ。	
		政治学概論	政治は、社会の公平と秩序を実現するための営みであり、私たちの生活に深く影響している。本科目では、政治の基礎的な概念と政治的なものの見方等について学ぶ。具体的には、民主政治の歴史や、福祉と政治の関係、民主政治の様々な仕組み、現代政治の仕組みなどについて学ぶとともに、今の日本の政治の成り立ちと経緯を学ぶ。	
		社会学概論	農山村では少子・高齢化が進み、限界集落など地域社会・コミュニティの衰退が大きな課題となっている。一方で、身近な生活の場である地域社会・コミュニティのあり方に改めて関心が集まっている。本科目では、社会学の歴史や基礎理論、社会調査の方法など、社会学的な思考に必要な基礎的な知識について学ぶ。具体的には、社会学の基礎理論を学んだ後、出生、教育、仕事、家族、健康など、われわれが人生で経験するライフイベントを取り上げ、社会学の概念を用いながら、近代化に伴う社会の変化と現代社会の課題について考察する。	
		法律学概論	日常生活の中で行われている商品売買に伴う契約行為など、生活やビジネスと法律は密接に関連している。本科目では、民法（総則、物権、債権、相続）、裁判制度における法の役割、法人制度など法律の基礎的な知識について学ぶ。具体的には、最初に民法、労働法、商法、会社法などについて学び、次に、裁判制度など法制度に不可欠な組織や、法情報の収集方法などを中心に法に関する概論を学ぶ。さらに、市民生活やビジネスとの関連を中心とした法的知識を学ぶ。	
		経済学入門	生産物の価格変動、資材費の変化などに経営者は常に意識を向けている。この変動、変化の元となる仕組みは経済学を学ぶことでより理解しやすくなる。本科目では、様々な経済活動やそれらを調整するための仕組みに関する学問として、人々の生活や各種の経済事業、関連政策の決定に基本的な考え（コンセプト）と分析手法を提供する重要な役割をもっている経済学について概説する。事例紹介や理論の説明を踏まえ、経済活動に関する基礎的な知識について学ぶ。	
		土壌・肥料学	土壌と肥料は、作物のからだをつくり、生命活動を維持するための必要な元素を供給することから、作物生産においてなくてはならないものである。また、近年、地域資源や有用生物を活用した持続的・環境保全型農業に対するニーズが高まっており、環境に配慮した栽培を行う上で土壌・肥料に関する知識は非常に重要なものとなっている。本科目では、土壌の基礎知識のほか、養分吸収特性、植物生産の代謝との関連、栄養特性、肥料の種類と特性等について学ぶ。	
		農業概論	山形県は、水稲をはじめ、オウトウやセイヨウナシなどの果樹、スイカやエダマメなどの野菜、啓翁桜に代表される花き、米沢牛に代表される総称山形牛など、農畜産物の生産が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目ではオムニバス形式により、日本と世界の農業が直面している現状と課題、６次産業化、各農業分野におけるこれからの展望等について学ぶ。これらを通じて、稲作や園芸作物・畜産の生産や生産物の取扱いに関する基礎全般について学ぶ。 （オムニバス形式／全30回） （1 小沢　亙／1回） 専門職大学で学ぶ農業の総論について概説する。 （3 齊藤邦行／2回） 稲作の基本知識、最新の稲作技術について概説する。 （18 柴田康志／1回） 水稲の品種と栽培環境について概説する。 （17 塩野宏之／2回） 水稲栽培の基礎と実際、土地改良事業と水利権について概説する。 （① 別所英男／2回） 果実の貯蔵と利用、最新の果樹栽培等について概説する。 （⑦ 石黒　亮／2回） 果樹栽培の現状と課題について概説する。 （⑤ 多田史人／1回） 果樹の特徴と栽培の基本について概説する。 （14 佐藤武義／2回） 花き栽培の基本知識、最新の野菜・花き栽培について概説する。	オムニバス形式

			(15 古野伸典／3回) 野菜栽培の基本知識と実際、現状と課題について概説する。 (④ 齊藤政宏／2回) 家畜衛生管理の実際及び育種・繁殖について概説する。 (⑧ 庄司則章／3回) 畜産の基本知識、最新の畜産について概説する。 (6 宮坂　篤／2回) 作物保護技術における現状と課題及びこれからの作物保護について概説する。 (③ 是川邦子／1回) 農村資源活用の実際について概説する。 (② 鬼島直子／1回) ６次産業化の実際について概説する。 (2 黒瀧秀久／2回) 日本の農業生産の現状と課題等について概説する。 (4 胡　柏／2回) 世界の農業生産の現状と課題等について概説する。 (8 吉仲　怜／1回) 各作目毎の経営の特徴について概説する。	
		耕畜連携論	米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、逆に転作田等で飼料作物を生産し、畜産農家の家畜の飼料として供給するなど、耕種サイドと畜産サイドの連携した取組みが行われている。本科目では、堆肥を活用した耕種生産、未利用資源の飼料化と堆肥化の生産技術など耕種農業と畜産業との連携について学ぶ。 (オムニバス形式／全8回) (3 齊藤邦行／4回) 作物分野から見た耕畜連携について概要を説明する。 (⑥ 高尾槙一／4回) 畜産分野から見た耕畜連携について概要を説明する。	オムニバス形式
		農業概論演習	農畜産物は、日々様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、農業全般に関連する生産技術、品種、環境、社会的・経済的背景などの諸問題についての理解を深め、より高度な知識を習得することを目的とし、グループ毎に設定した興味のある稲作や園芸作物・畜産に関するトピック的な話題や課題等のテーマについて、考察し、発表する。 (オムニバス形式／全15回) (18 柴田康志、3 齊藤邦行、6 宮坂　篤、17 塩野宏之／3回) 良食味水稲品種のブランド化戦略、環境保全的な水稲栽培、多様な米の栽培等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。 (⑦ 石黒　亮、① 別所英男、⑤ 多田史人／3回) 果樹栽培に及ぼす温暖化の影響と対策、省力栽培技術とスマート農業の取り組み、果実輸出と品質管理等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。 (14 佐藤武義、15 古野伸典、13 森　和也／3回) 野菜・花きの注目品種、最新の栽培環境制御、鮮度保持と効果的な流通方法等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。 (⑧　庄司則章、④ 齊藤政宏、⑥ 高尾槙一／2回) 最新の飼養管理とブランド化等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。 (③　是川邦子、② 鬼島直子、1 小沢　亙／1回) 農村資源活用の実践事例等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。 (2 黒瀧秀久、4 胡　柏、8 吉仲　怜／3回) 農産物の高付加価値化、国際情勢と食糧生産、世界の持続的農業生産等について概説した後、グループワークによりまとめ、発表する。	オムニバス形式
		植物保護学	作物の病害虫及び雑草による被害は農業経営に甚大な影響を及ぼすことから、被害を防ぐためにはその原因となる病原体、害虫及び雑草の特徴、病害虫・雑草の発生生態及び防除方法の知識は不可欠である。本科目では、作物の病害虫・雑草を対象にその被害と自然環境維持に果たす植物保護の意義と役割を理解するとともに、病原体、害虫及び雑草の特徴や伝染環・生活環、病害虫の発生生態、植物の病害虫抵抗性の機構、雑草の生理生態等を理解し、作物の病害虫及び雑草防除の理論と技術について学ぶ。	
	生産	家畜衛生学	畜産経営では、家畜を病気から守り、健全な家畜を飼養することが求められる。病気の特徴を理解し、感染や発症経過を知り、どのような予防・防除の方策を立て飼養管理・衛生管理を行っていくかが重要となる。本科目では、家畜の疾病予防や獣医疫学環境衛生、管理衛生、飼養衛生のほか、関連法規など畜産現場において必要な家畜衛生に関する一連の基礎知識について学ぶ。	

理論・技術	圃場実習Ⅰ	農業生産現場においては、関連する知識の修得のみならず、品目や畜種に応じた適切な管理技術を実際に経験し、自ら考えて行うことが重要である。本科目では、圃場や畜舎において、稲作、果樹、野菜・花き、畜産の生産管理に関する基礎的な知識や技術とともに、農作業機械の運転方法等について学ぶ。 （オムニバス形式／全120回） （18 柴田康志、3 齊藤邦行、17 塩野宏之、6 宮坂　篤／25回） 水稲・畑作物の基本的な栽培管理、生理、病害虫について実習を行う。 （⑦ 石黒　亮、① 別所英男、⑤ 多田史人、6 宮坂　篤／25回） 果樹の基本的な栽培管理、生理、病害虫について実習を行う。 （14 佐藤武義、15 古野伸典、13 森　和也、6 宮坂　篤／26回） 野菜・花きの基本的な栽培管理、生理、病害虫について実習を行う。 （④ 齊藤政宏、⑧ 庄司則章、⑥ 高尾慎一／8回） 肉用牛の基本的な飼養管理と衛生について実習を行う。 （18 柴田康志／36回） 外部講師を招聘し、農作業機械の基本操作の実習とトラクターの実技試験を行う。	オムニバス形式
	先端農業技術論	AIやドローン、ICTなどに代表される農業分野での技術革新が進む中、この新たな技術を取り入れた生産性・収益性の高い農業の実践が求められている。本科目では、各分野の専門家を招聘し、農業分野における先端技術の活用に向けた研究開発・実証・実施・普及の状況やその内容等について学ぶ。	
	栽培各論（稲作）	将来の営農の軸となる分野（稲作、果樹、野菜・花き、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、専門的な生産技術について学ぶ。本科目では、稲作の基礎としてのイネの生理生態に関する基礎知識及び環境条件の影響について概説する。また、東北地域と山形県の稲作の生産性と生産技術を歴史的に概説するとともに、水田フル活用に向けた大豆、麦、飼料用米等の栽培方法について講ずる。さらに、多収穫の基礎と収穫物の品質、安全安心な水稲生産について展望する。これらを通じ、稲作のより専門的な生産技術について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （3 齊藤邦行／5回） イネの特徴、世界及び日本の生産について概要を説明する。 （18 柴田康志／5回） 東北、山形県における水稲栽培について概要を説明する。 （17 塩野宏之／5回） 水田転作、環境保全型の水稲栽培について概説する。	オムニバス形式
	栽培各論（果樹）	将来の営農の軸となる分野（稲作、果樹、野菜・花き、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、専門的な生産技術について学ぶ。本科目では、東北地域を中心に、我が国で栽培されている果樹の生理・生態と栽培技術の特徴について、実習などと連携しながら海外の事例も含めてグローバルな視野から理解を深める。また、それぞれの樹種の生産と環境要因との関係について考察し、育種、品種特性、繁殖(種苗管理、法規制)等について理解を深める。これらを通じ、果樹のより専門的な生産技術について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （⑦ 石黒　亮／5回） オウトウ、カキ等の生理生態、世界及び我が国での生産状況について概説する。 （① 別所英男／5回） ブドウ、リンゴ等の生理生態、世界及び我が国での生産状況について概説する。 （⑤ 多田史人／5回） セイヨウナシ・ニホンナシ、モモ・スモモの生理生態、世界及び我が国での生産状況について概説する。	オムニバス形式

	栽培各論（野菜・花き）	将来の営農の軸となる分野（稲作、果樹、野菜・花き、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、専門的な生産技術について学ぶ。本科目において、野菜では、形態と生理、作型等の基本事項を概説し、その特徴や世界での生産状況について解説する。花きについては、分類、生産、流通、品質保持などの基本事項を解説し、日本の市場で取り扱い金額の多い品目と増加の著しい品目を選び、花の形態、花芽形成、作型などについて解説する。さらに、世界の生産状況についても概説する。これらを通じて野菜・花きのより専門的な生産技術について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （14 佐藤武義／6回） 主要な花きの国内外の生産状況について概説する。 （15 古野伸典／9回） 主要な野菜の国内外の生産状況について概説する。	オムニバス形式
	飼育各論（畜産）	将来の営農の軸となる分野（稲作、野菜・花き、果樹、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、より専門的な栽培及び生産技術について学ぶ。本科目では、牛、豚、鶏の飼育及び生産技術、及び我が国と諸外国における牛や豚の飼養状況等について理解を深め、畜産のより専門的な生産技術について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （④ 齊藤政宏／7回） 家畜衛生、牛の疾病管理、アニマルウェルフェア、我が国及び諸外国における豚飼養状況について概説する。 （⑧ 庄司則章／8回） 我が国及び諸外国における牛飼養状況について概説する。また、外部講師を招聘し、採卵鶏及び肉用鶏について概説する。	オムニバス形式
	圃場実習Ⅱ（稲作）	将来の営農の軸となる分野（稲作、果樹、野菜・花き、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、生産管理に関する知識や技術について学ぶ。本科目では、稲作（畑作を含む）の生産管理に関する、より専門的な生産管理に関する知識や技術について学ぶ。また、刈払機の安全衛生講習のほか、GAPの生産管理や最新技術を活用したスマート農業などに関する実践的な知識・技術について学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（果樹）	将来の営農の軸となる分野（稲作、野菜・花き、果樹、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、生産管理に関する知識や技術について学ぶ。本科目では、果樹栽培の基本的な管理に加え、年間を通じた果樹の生育特性を把握し、より専門的な生産管理に関する知識や技術について学ぶ。また、刈払機の安全衛生講習のほか、近年の農業情勢の変化を踏まえ、GAPによる生産管理、スマート農業、温暖化対策など最新の知識・技術を学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（野菜・花き）	将来の営農の軸となる分野（稲作、野菜・花き、果樹、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、生産管理に関する知識や技術について学ぶ。本科目では、野菜・花きの生産管理に関する、より専門的な知識や技術について主に学ぶ。また、刈払機の安全衛生講習のほか、GAPの生産管理や最新技術を活用したスマート農業などに関する実践的な知識・技術についても学ぶ。	共同
	圃場実習Ⅱ（畜産）	将来の営農の軸となる分野（稲作、果樹、野菜・花き、畜産の４つのいずれか）を１つ選択し、生産管理に関する知識や技術について学ぶ。本科目では、より専門的な畜産の生産管理に関する知識や技術について学ぶ。具体的には、家畜の飼養管理技術を理解するための飼養実習を行う。併せて、家畜ふん尿を用いた堆肥の製造および飼料作物の管理を行う。また、先進的な農場や飼料工場、食肉処理場などを見学し、生産流通現場の実情について理解を深める。	共同
	農業実地体験実習	山形県内には、地域農業をけん引している優れた農業経営体が複数存在する。本科目では、県内にある複数の農業経営体を訪れ、実際に実習を体験することで農業経営体が持つ優れた生産・経営モデルに触れ、将来経営したい営農類型を検討するために必要な農業現場の実態を学ぶ。	共同
	農業生産工程・食品衛生論	農産物の生産工程管理や食品の安全とそれに関連した知識を学ぶことは農業経営上重要である。本科目では、食品の安全、環境保全に関わる法律や行政の仕組み、食品の変質や微生物に関する科学と安全衛生対策技術に加え、GAP（農業生産工程管理）、食品保存、食品安全、食品化学や食品衛生等の基礎知識や先進事例について学ぶ。	

②職業専門科目	経営全般	SDGsと農業・森林業	農林業と自然環境とが共存していくあり方を考えることは、農林業を営むうえで重要である。また、農地・森林環境は食料・木材等生産物の安定供給という生産機能のほか、人類社会の持続可能な発展や地球環境の保全等において多面的な機能を発揮している。本科目では、農業・農村の有する多面的機能、森林環境の提供しているさまざまな生態系サービスや持続可能な農業・森林業へ向けた取組の進め方を学ぶとともに、農林業生産に起因する環境問題とその対策について考え、SDGsの達成・実現に向けた農業及び森林業のあり方について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （4 胡　柏／7回） SDGsの理念と農林業、環境保全型農業、地産地消（CSA）について概説する。 （20 柴田晋吾／7回） 森林とSDGｓの関わり、SDGｓ実現のための戦略、環境を守り経済発展も目指す取組みについて概説する。 （4 胡　柏、20 柴田晋吾／1回）（共同） まとめと総括を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		国際農業論	農業分野におけるグローバル化（国際化）の進展によって諸外国との人的交流（国際協力）や物（商品やサービス）、金（投資）、情報のやり取りが活発になっている。こうした動きは農業経営に様々な影響を及ぼし、個別経営、地域、農政の各段階で対応が求められる。本科目では、農業のグローバル化の進展、実態、影響、対策など、海外の農業の最新動向について学ぶ。	
		国際農業・森林業実習	社会や経済情勢など、日々変化する農林業を取り巻く国際情勢を機微に感じ取り、グローバルな視点で農林業経営に取り組む素養を身に付けるためには、海外での短期滞在実習を通して、海外の農業及び森林業経営の実態について理解することが重要である。本科目では、一例として、米国コロラド州立大学など海外の大学や農業地及び森林業地への短期滞在実習を通して、海外の農業及び森林業経営の実態について学ぶ。	共同
		臨地実務実習Ⅰ（生産管理等）	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、作目や事業内容に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では優れた農業経営体での実習を通じて、農業経営体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。	
		農業政策	農業経営を行うにあたっては、農業政策や制度等に関する内容や最新動向を知っておく必要がある。本科目では、日本や海外も含めた農業政策や制度等に関する基礎的な知識、歴史的経緯、最新動向などについて学ぶ。	
		組織マネジメント論	農業又は森林業経営者にとって、組織の持つ資源を適切に管理し、円滑に運営できることは重要なスキルの１つとなる。本科目では、組織マネジメントを実施する際に重要となる、戦略、システム、スキル、人材、スタイル、価値観等のあり方について学ぶ。また、ヒト・モノ・カネ・情報の４つの資源を有効に活用し、経営組織や地域組織の組織効率を最大限に高める手法等について学ぶ。	
		農業経済学	農業経営にあたっては、農業が抱えている経済的な側面について、さまざまな角度・視点から知見を広めていく必要がある。本科目では、農業問題を理解するために、食料・農業・農村の実態に関する知識と農業に固有な経済学的な理論とともに、農業生産や農産物流通、消費、貿易、環境等に関わる経済諸問題について学ぶ。	
		農業知的財産論	知的財産法は特定の要件を満たす情報に財産権を付与することで、情報の保護を認めるものである。その性質上、農業経営においては、知的財産に関する知識が不可欠といえるため、本科目では、農業分野に関連する知的財産法制について学ぶ。具体的には、特許法や著作権法を中心とした知的財産法の一般論、種苗法及び地理的表示保護制度、製品企画・販売戦略に係る意匠・商標制度など、知的財産法制の基礎知識について学ぶ。	
		マーケティング論	農業又は森林業経営においては、消費者に必要とされているものを知り、伝え、何を、どうやって売るのかを考えて、ものが売れる仕組みを作ることが重要となる。本科目では、マーケティング視点に立った、農林産物の販売戦略や導入戦略の立て方について学ぶ。また、農業又は森林業を起点とした新たな事業展開を図る際に必要となる、市場状況等を把握するためのマーケティングの基礎的な知識やマーケティングリサーチの手法等について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （8 吉仲　怜／9回） 戦略計画とマーケティングプロセス、マーケティングリサーチを概説する。 （1 小沢　亙／2回） 消費者市場、消費者行動について概説する。 （2 黒瀧秀久／2回） 農山村地域とマーケティングを概説する。 （8 吉仲　怜、1 小沢　亙、2 黒瀧秀久／2回）（共同） ケーススタディのまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部）

	農業経営分析・計画	農業経営を行うにあたっては、経営状況の把握・分析をしっかり行い、それに基づく適正な経営計画を立案し、確実に実行していく必要がある。本科目では、経営分析や経営計画の考え方や手順について学ぶとともに、コンピュータを利用した実習によってデータ処理の技術を学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （1 小沢　亙／5回） オリエンテーション、中間まとめ、コンピュータを利用した生産情報の分析を行う。 （2 黒瀧秀久／3回） 経営理念・経営分析及びまとめを行う。 （③ 是川邦子／2回） 簿記の意義・目的・種類・基礎概念について分析する。 （8 吉仲　怜／5回） マーケティング、財務、経営計画に関する分析を行う。	オムニバス形式
	税制・簿記論	経営者として、企業会計として一般的に行われている複式簿記による会計経理の手法や、基本的な税制度の内容を理解しておく必要がある。本科目では、基礎的な税（所得税(所得の種類、所得控除、税額控除、課税所得の申告方法等)、消費税(インボイスの仕組み)、法人税（益金、損金）等）の仕組みと合わせ、仕訳、勘定、簿記一巡の手続き、基本的な商品売買、試算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法など、基礎的な税の仕組みや商業の簿記原理と記帳、決算に関する初歩的な事項等について学ぶ。 （オムニバス形式／全8回） （8 吉仲　怜／4回） 勘定科目と仕訳、商品売買取引、資本取引についてを概説する。 （③ 是川邦子／2回） 簿記の意義・目的・種類・基礎概念について概説する。 （8 吉仲　怜、③ 是川邦子／2回）（共同） 基礎的な税の種類と仕組み、損益計算書・貸借対照表の作成を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
	臨地実務実習Ⅱ（経営管理等）	自らが将来携わりたい農業経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。	
	簿記各論	近年、農業及び森林業では法人形態による規模拡大が進んでいる。法人経営では個人経営に比べ、モノ、カネの動きがより複雑となることから、会計・経理状況を把握できる経営知識がより重要なものとなる。本科目では、簿記の各論として、原価、決算手続き、変動費、固定費、損益分岐点分析等について学ぶ。また、税制・簿記論で学んだ基礎的な考えを基に、さらに高度な手法を学習し、演習を通じて複式商業簿記等の記帳に関する理論と実践を学ぶ。 オムニバス形式／全8回） （8 吉仲　怜／6回） 期中取引、決算、原価、変動費、固定費、損益分岐点分析、連結会計について概説する。 （8 吉仲　怜、③ 是川邦子／2回）（共同） 財務諸表及び財務諸表の作成を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
	臨地実務実習Ⅲ（経営総合）	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた農業経営体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた農業経営体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、農業経営体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。	

地域課題解決能力	東北の稲作	農業経営や農産物生産・販売の取組みには、その地域に即した様々な特徴がある。本科目では、東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県における稲作の生産状況や栽培技術の特徴を学ぶとともに、経営体の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （18 柴田康志／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、稲作生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （3 齊藤邦行／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、稲作生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （17 塩野宏之／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、稲作生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （18 柴田康志、3 齊藤邦行、17 塩野宏之／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
	東北の果樹	農業経営や農産物生産・販売の取組みには、その地域に即した様々な特徴がある。本科目では、東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県における果樹の生産状況や栽培技術の特徴を学ぶとともに、経営体の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （⑦ 石黒　亮／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、果樹生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （① 別所英男／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、果樹生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （⑤ 多田史人／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、果樹生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （⑦ 石黒　亮、① 別所英男、⑤ 多田史人／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
	東北の野菜・花き	農業経営や農産物生産・販売の取組みには、その地域に即した様々な特徴がある。本科目では、東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県における野菜・花きの生産状況や栽培技術の特徴を学ぶとともに、経営体の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （14 佐藤武義／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、野菜・花き生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （15 古野伸典／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、野菜・花き生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （13 森　和也／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、野菜・花き生産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （14 佐藤武義、15 古野伸典、13 森　和也／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）

	力	東北の畜産	農業経営や農産物生産・販売の取組みには、その地域に即した様々な特徴がある。本科目では、東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県における畜産の生産状況や飼養技術の特徴を学ぶとともに、経営体の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の農業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （⑧ 庄司則章／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、畜産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （④ 齊藤政宏／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、畜産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （⑥ 高尾槙一／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び農業経営者を招聘し、畜産の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （⑧ 庄司則章、④ 齊藤政宏、⑥ 高尾槙一／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		農山村活性化論	農山村地域は、過疎化や高齢化、それに伴う耕作放棄地の増加など、様々な課題に直面している。農山村の特徴を活かしながら、持続可能な農業又は森林業や地域のあり方を考えるためには、生産者や経営者としての視点だけでなく、生活者である地域住民の視点で物事を考えていく必要がある。本科目は、同時期に開講する「農山村活性化論演習」の学びとともに、農山村の生活や地域社会の現状及びこれらを取り巻く課題を理解し、「内発的発展論」を踏まえてその改善や解決に向けた対応と手法について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （2 黒瀧秀久／3回） ガイダンス、国土政策と農山村、地域政策・活性化政策について概説する。 （1 小沢　亙／1回） 中山間地域直接支払制度と地域農政について概説する。 （4 胡　柏／2回） 農山村と土地問題、地域創生について概説する。 （③ 是川邦子／3回） 「内発的発展」の理論と農産資源を活かしたコミュニティの再生と人づくりについて概説する。 （8 吉仲　怜／2回） 農山村の衰退と過疎化について概説する。 （2 黒瀧秀久、1 小沢　亙、4 胡　柏、③ 是川邦子、8 吉仲　怜／4回）（共同） 農山村、地域社会の現状と課題について、解決に向けた取り組みについて事例紹介を通じて概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		農山村活性化論演習	農山村の特徴を活かしながら、持続可能な農業又は森林業や地域のあり方を考えるためには、生産者や経営者としての視点だけでなく、生活者である地域住民の視点で物事を考えていく必要がある。本科目では、同時期に開講する「農山村活性化論」の学びと連携し、４～８名程度の演習グループで山形県内の農山村集落を訪問し、地域住民と交流する。農山村集落でのワークショップ等のフィールドワークにより地域活性化の実践的手法等について学修する。	共同
		食品製造・販売	農業経営者が自ら生産した農畜産物を活用して加工品を製造・販売することは、経営の多角化に向け、新たな事業展開を図るための起点（一丁目一番地）となる分野である。本科目では、経営の多角化の基本となる６次産業化の戦略と展望、食品の安全、環境保全に関わる法律、食と農のビジネスの基本・食品製造業の役割など農業を起点とした新たな事業の取組の基本を学ぶとともに、農産物の加工食品とその加工手法などについて学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （③ 是川邦子、② 鬼島直子／1回）（共同） 私たちの食生活と食料消費パターンの変化について概説する。 （③ 是川邦子／7回） 食品製造を取り巻く現状と6次産業化について概説する。 （② 鬼島直子／7回） 食品製造及び食品加工の基本技術と栄養、成分等について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		食品製造・販売実習	農業経営者が自ら生産した農畜産物を活用して加工品を製造・販売することは、経営の多角化に向け、新たな事業展開を図るための起点（一丁目一番地）となる分野である。本科目では、校内の農産加工実習棟で食品の製造と食品衛生管理、加工原料確保、原価計算・包装・表示、校内の市場等での販売等の実践を通じて、食品製造と衛生管理、販売に関する知識や技術について学ぶ。	共同

③展開科目	応用的・創造的能力	デザイン論	人が何らかの目的を持ち、何かを生み出す際に、どのように形にするか計画するのが企画であり、形に表すことがデザインである。本科目では、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、ニーズをアレンジし、アイデアをプランニングし、「かたち」にするプロセスや企画力に関する基礎的な知識について学ぶ。具体的には、人の幸せのためにというデザイン・企画の本質（原点）をおさえながら、現代の市場の問題を考え、これからの社会に通用する・生活者から共感される企画力（課題からアイデア、アイデアを企画へ）の基本を学ぶ。	隔年
		金融論	金融とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することをいう。経営者が自らの事業を実施、継続し、さらに新規事業を展開するためには、金融機関等からの融資を受けることが想定され、金融に関する理解を深めることは経営上重要である。本科目では、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる金融制度について学ぶ。具体的には、企業金融や銀行の役割、外国為替相場など金融に関する基礎的な知識について学ぶ。	隔年
		発酵学・醸造学	発酵は漬物、酒等の食品製造分野以外にもバイオマス燃料や医薬など我々の生活に深く根付いている。本科目では、酵素や微生物を活用した農林産物加工品の製造のみならず、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、発酵食品・醸造品の発酵技術や活用等について学ぶ。具体的には、パン、醸造酒、蒸留酒、調味料、チーズ他、様々な発酵食品・醸造品について、酵母や乳酸菌の利用等の発酵・醸造に関する基礎的な製法等を学び、発酵食品・醸造品の歴史、地域、製法、活用について学修を進めていく。さらに、発酵食品・醸造品の栄養性・機能性について理解を深め、プロバイオティクスなど新しい考え方も学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （36 藤井　力、42 渡部　潤／1回）（共同） 初回の講義時にガイダンスを行う。 （36 藤井　力／7回） 主に酵母を利用した発酵食品について概説する。 （42 渡部　潤／7回） 主に発酵調味料と乳酸菌を利用した食品について概説する。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		建築学	日本では古代から建築に木材が用いられている。現代では、木以外の様々な素材や構法が用いられるようになっているが、木という材質特性がもたらす様々なメリットから、建築における木材利用が改めて注目されている。本科目では、建築業界と連携した、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる木造建築の構造特性、新たな木質構造技術等について学ぶ。また、木造建築の歴史からその構法、様々な木材利用方法について学ぶ。	隔年
		社会福祉論	社会福祉とは、障がい者や高齢者等の社会的弱者の生活の安定と充足を公的に達成しようとすることであり、社会に暮らす一人ひとりが幸せに生きる上で不可欠なものである。本科目では、農(林)福連携など、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる社会福祉の基本理念や社会福祉制度等を学ぶ。具体的には、最初に社会福祉の歴史について学び、さらに現在の家族、地域社会の動向や変化を踏まえ、様々な社会問題と社会福祉の関連性を考察する。 （オムニバス形式／全15回） （32 下村美保／7回） ガイダンスの実施及び、社会福祉の歴史、地域社会の変化について概説する。 （33 髙梨友也／7回） 社会問題と社会福祉の関連性、保障制度について概説する。 （32 下村美保、33 髙梨友也／1回）（共同） 講義のまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		栄養学	栄養学は、食べ物とその成分である栄養素が生物の中でどのような役割を持つかを研究する学問である。本科目では、機能性表示食品など、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、食と栄養等の基礎的な知識について学ぶ。具体的には、栄養と健康の関係や、食品成分表を使った栄養計算、機能性表示食品の概要等を学ぶ。さらに、健康と栄養の観点から、農林産物を新たに活用する手法とその課題について学ぶ。	隔年
		山形・東北観光学	観光とは、他の国や地域を訪れ、風景、史跡、風土等を見聞したり体験することであり、観光学とは、観光に関する諸事情を研究する学問である。観光は文化的交流、地域の活性化、地域の魅力発見等にも繋がりうることから、農山村地域の資源等を活用した新たな事業展開が期待される。本科目では、農山村地域の資源等を活用した、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる山形・東北の観光資源と、それに留まらない交流人口の捉え方や、発地型観光と着地型観光等を学ぶ。	隔年

		デザイン論演習	人が何らかの目的を持ち、何かを生み出す際に、どのように形にするか計画するのが企画であり、形に表すことがデザインである。また、デザイン・企画の本質は人の幸せのために行うことである。本科目では、講義と連携した演習とし、企業や団体、地域のブランドやマーケティング戦略・商品開発事例等を題材として、発想、企画構成などについて考察する。具体的には、個人ワークとグループワークにより、実際に地域のクライアント等の協力のもと、よりリアルに企画を考え（共感、問題発見、マーケティング・リサーチ・分析、アイデア、企画・コンセプト等）、プレゼンテーションまでを行う。	隔年
		金融論演習	金融とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することをいう。農林業経営者が自らの事業を実施、継続し、さらに新規事業を展開するためには、金融機関等からの融資を受けることが想定され、金融に関する理解を深めることは経営上重要である。本科目では、最初に資金調達や貸出判断、為替相場、貿易金融取引等について解説した後、講義と連携した演習とし資金調達や貿易金融等の事例を題材として、その課題等について考察する。	隔年
		発酵学・醸造学演習	発酵は漬物、酒等の食品製造分野のみならず、バイオマス燃料や医薬品製造など様々な分野で活用されている。本科目では、発酵・醸造食品とその利用による付加価値向上について理解するとともに、大学で求められる、自分で調べること、他の人に説明すること、他の人の発表を聞いて要点をまとめること等の慣れや習得を目指す。また、講義と連携した演習とし、微生物利用による原材料の高付加価値化や発酵食品の展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。 （オムニバス形式／全15回） （36 藤井　力／7回） 主に酵母を利用した発酵食品の事例研究と事例を発表する。 （42 渡部　潤／8回） 主に乳酸菌、麹菌を利用した発酵食品とブランド化事例について発表する。	オムニバス形式 隔年
		建築学演習	木という材質特性がもたらす様々なメリットから、建築における木材利用が改めて注目されている。本科目では、講義と連携した演習とし、基礎的な構造設計図書の見方や構造計算の方法、木材の実践的な活用法や劣化等について考察する。まず建物を理解するための、事例調査や実測を行い、図面の見方を理解すると共に、その基礎的な表し方を学ぶ。また、木材をはじめとする仕上げ材料の用い方や、その劣化などを実習的に学ぶ。さらに、構造力学の基礎を学修し、部材に生じる力や応力を理解すると共に、それを踏まえた部材の断面設計方法や構造計算方法を学ぶ。最終的には、木の特性を活かした木造架構を提案する。	隔年
		社会福祉論演習	社会福祉とは、障がい者や高齢者等の社会的弱者の生活の安定と充足を公的に達成しようとすることであり、社会に暮らす一人ひとりが幸せに生きる上で不可欠なものである。本科目では、まずは就業者不足問題とそれに対応した福祉的就労、生活困窮者の就労支援、高齢者の生きがい支援等について学ぶ。また、講義と連携した演習とし、様々な産業分野と福祉分野との展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。 （オムニバス形式／全15回） （32 下村美保／7回） 就業者不足問題、福祉的就労、生活困窮者の就労支援、高齢者の生きがい支援、地域社会の変化について概説した後、事例分析、検討し、発表する。 （33 髙梨友也／7回） 農林業生産分野と福祉分野の連携について事例分析、検討し、発表する。 （32 下村美保、33 髙梨友也／1回）（共同） 講義のまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		栄養学演習	農林産物に含まれる栄養素について学ぶことで、農林産物を活用した事業展開の基礎となるだけでなく、機能性表示食品の開発など医療分野等との連携など新たな事業展開が期待される。本科目では、栄養・健康に関する情報の正しい伝え方について学ぶとともに、講義と連携した演習とし、栄養や栄養素に着目した商品事例を題材として、その商品化に向けた展開手法や課題等について考察する。	隔年
		山形・東北観光学演習	観光とは、他の国や地域を訪れ、風景、史跡、風土等を見聞したり体験することであり、観光学とは、観光に関する諸事情を研究する学問である。観光は文化的交流、地域の活性化、地域の魅力発見等にも繋がりうることから、農山村地域の資源等を活用した新たな事業展開が期待される。本科目では、講義と連携した演習とし、農山村地域の資源等を活用した観光分野との展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。	隔年

④総合科目	総合的能力	経営分析・計画演習	臨地実務実習先における課題解決を図るため、現在の経営上・生産技術上の課題を抽出、整理し、解決を図り、今後の経営戦略の展開方向について分析・考察する。本科目では、「稲作」「果樹」「野菜・花き」「畜産」の４分野の所属グループに分かれ、学生、指導教員及び臨地実務実習の受入先の３者で調整のうえ、臨地実務実習先における課題解決と経営展開方向に関する研究テーマを設定する。４年次の臨地実務実習先の農業経営を題材とした研究テーマに取組み、経営戦略の展開方向等を分析・考察し卒業論文として取りまとめる。	共同

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農林業経営学部森林業経営学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域等の特性	山形・東北の風土・伝統文化	本学が立地する山形県、東北地域が有する風土・伝統・文化・生活・産業等の背景やそこから受ける恩恵などについて理解することは、東北地方の一員として生きていくうえで重要である。本科目では、グループごとにテーマを決め、山形や東北地方の方言と伝統文化、歴史等に関する発表を行う。これらを通じ、山形及び東北地方の風土、歴史、伝統・文化、方言と農業及び森林業等との関わり等について学ぶ。	
		哲学と東北	地域が有する気候風土や歴史等の特徴が人の活動に及ぼす影響を哲学的な観点から考察することは、その地域を深く理解することに繋がる。本科目では、土地倫理・環境問題・世代間倫理等、我々が直面する諸問題について概説し、21世紀における社会のあるべき姿についての見通しを立てる。また、「東北」という地域の歴史とその特性に関して、上述の事柄と関連付けつつ理論化することも試みる。これらを通じ、農山村社会に生きた先達の思想（人生観や世界観）と背景に触れ、農山村　社会に生きる者としての心構え（生きる糧、知恵と工夫など）について学ぶ。	
	コミュニケーション能力	英語基礎	グローバル化が進む中、多種多様な人々と交流するためには、英語を「読む、書く、話す、聞く」という基本的なコミュニケーション能力が求められる。本科目では、テキスト等を用い、これまで学習した英語を振り返り、「読む、書く、聞く、話す」という英語運用能力の基本を学び、英語の基礎的な理解に役立てる。	
		コミュニケーション論	社会人として、挨拶、言葉づかい、行動規範などの基本的なコミュニケーション力を持つことは必須である。本科目では、コミュニケーションのツールとして、対話、ディスカッション、プレゼンテーション等の技法について学ぶ。さらに、社会人や経営者として、農山村生活や消費者も含めた他者との円滑なコミュニケーション能力を養成するため、人間と言語・コミュニケーションの関係のあり方を学ぶ。	
		ビジネス英語Ⅰ	ビジネスを展開する上で、今後は国内のみならず、海外の市場へ目を向けていく必要がある。その場合、海外事業者との商談時等には実践的な英語によるコミュニケーション能力が求められる。本科目では、「読む、書く、聞く、話す」の英語４技能について、海外事業者との商談時の商品説明等の具体的なビジネスシーンを想定しながら、農林業分野に特有の言葉遣いも交えた実用的な商用英語について学ぶ。	
		ビジネス英語Ⅱ	ビジネスを海外展開していく場合、より実用的、実践的なビジネス英語によるコミュニケーション能力が求められる。本科目では、「ビジネス英語Ⅰ」に引き続き、ディスカッションやプレゼンテーションといった実践を通し、海外事業者との商談時の商品説明等の具体的なビジネスシーンを想定しながら、農林業分野に特有の言葉遣いも交えた実用的な商用英語について学ぶ。	
		スポーツ	健康的な生活を送るための方法の一つとして、スポーツの実践を通して、体力の向上と維持増進を図ることが重要である。本科目では、スポーツや体力トレーニングなどの実習を通して健康的な身体づくりについて学び、身体を動かす楽しさや生涯にわたって運動することの大切さを理解し、運動による健康と体力づくりに必要な知識と実践手法について学ぶ。	

①基礎科目	一般教養（人間と自然・スポーツ・社会・情報）	SDGsと倫理	SDGsはすべての産業活動と密接に関連している。世界各国が、政府、民間を問わずSDGsの達成に向けて行動し、持続可能な経済、社会の構築を目指している。SDGsに掲げる17の目標、169のターゲットの多くが、私達の倫理観と行動様式に関わっている。本科目においては、様々な環境問題等の社会的課題、SDGsの取組と倫理的な側面に関する基礎的な考え方や知識について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （13 胡　柏／7回） SDGsの理念と倫理、公正な社会の実現等について概説する。 （④ 堀　靖人／7回） SDGsと環境倫理、持続可能な森林経営のSDGsにおける意義等について概説する。 （13 胡　柏、④ 堀　靖人／1回）（共同） 授業のまとめと総括を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		気象・気候学概論	人や生物の活動は気象や気候の影響を強く受けるものであり、気象・気候と生物の生育や気象災害との関係を理解することは重要である。本科目では、気象や気候に関する基礎的な知識及び近年の気候変動による気象災害の現状と対策について学ぶ。具体的には、気象現象の仕組み、地表面の熱収支、局地的な気象現象、気象災害（暴風、洪水、干ばつ、冷害など）について学ぶ。	
		統計学	統計学は、ある工夫をした結果、例えば生産量、品質、成長量・生存率が変化した場合に、これらの現象を客観的に判断し、対外的に説明できるツールを提供する。また、統計学は、様々な工夫が結果に及ぼした程度、予測の可否等に対しても有用なツールを提供する。本科目では、実用場面での使用を想定しながら、統計ツールの取扱いに関する基礎的な知識について学ぶ。	
		情報活用	ネットワークや表計算ソフトなどを利用した情報の収集・分析は、経営判断やプレゼンテーションなどを行う際の資料作成等に欠かせない技術である。本科目では、グラフ作成や関数を用いたデータ処理など、経営者として必要となる実践的な情報処理能力を身に付けるため、情報やデータの処理・分析方法及び加工・活用方法について学ぶ。	
		政治学概論	政治は、社会の公平と秩序を実現するための営みであり、私たちの生活に深く影響している。本科目では、政治の基礎的な概念と政治的なものの見方等について学ぶ。具体的には、民主政治の歴史や、福祉と政治の関係、民主政治の様々な仕組み、現代政治の仕組みなどについて学ぶとともに、今の日本の政治の成り立ちと経緯を学ぶ。	
		社会学概論	農山村では少子・高齢化が進み、限界集落など地域社会・コミュニティの衰退が大きな課題となっている。一方で、身近な生活の場である地域社会・コミュニティのあり方に改めて関心が集まっている。本科目では、社会学の歴史や基礎理論、社会調査の方法など、社会学的な思考に必要な基礎的な知識について学ぶ。具体的には、社会学の基礎理論を学んだ後、出生、教育、仕事、家族、健康など、われわれが人生で経験するライフイベントを取り上げ、社会学の概念を用いながら、近代化に伴う社会の変化と現代社会の課題について考察する。	
		法律学概論	日常生活の中で行われている商品売買に伴う契約行為など、生活やビジネスと法律は密接に関連している。本科目では、民法（総則、物権、債権、相続）、裁判制度における法の役割、法人制度など法律の基礎的な知識について学ぶ。具体的には、最初に民法、労働法、商法、会社法などについて学び、次に、裁判制度など法制度に不可欠な組織や、法情報の収集方法などを中心に法に関する概論を学ぶ。さらに、市民生活やビジネスとの関連を中心とした法的知識を学ぶ。	
		経済学入門	生産物の価格変動、資材費の変化などに経営者は常に意識を向けている。この変動、変化の元となる仕組みは経済学を学ぶことでより理解しやすくなる。本科目では、様々な経済活動やそれらを調整するための仕組みに関する学問として、人々の生活や各種の経済事業、関連政策の決定に基本的な考え（コンセプト）と分析手法を提供する重要な役割をもっている経済学について概説する。事例紹介や理論の説明を踏まえ、経済活動に関する基礎的な知識について学ぶ。	

		森林土壌・樹木学	持続的な森林管理や森林資源の利活用を行っていく上で、森林の土壌や樹木に関する知識は必要不可欠である。本科目では、森林土壌の特性と樹木の成長特性を理解することにより、森林を利用する上で必要な着眼点を養う。さらに、寒冷地特有の樹木の越冬メカニズムを理解することにより、東北地方に生育する樹木の成長様式をイメージできるようにする。これらを通じ、森林土壌、樹木の根系、樹木の地上部の成長特性等に関する基礎的な知識について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （② 大久保達弘、⑥ 上野　満／1回）（共同） ガイダンスを行う。 （② 大久保達弘／9回） 樹木の基本、木部構造、乾燥ストレス等について概説する。 （⑥ 上野　満／5回） 森林土壌と土壌断面作成、土壌生物等について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		造林学	造林学の知識は、森林の管理・人工林の育成を行う上で必須である。特に東北地方の多雪地における造林は、適地適木を見極める必要がある。そのため、地域毎の環境に最適な森林を育成するためには、樹種毎の生育特性を理解し、その成長を経時的に評価していく必要がある。本科目では、これからの森林管理・利用の方向性を理解するため、針葉樹の造林の基礎、広葉樹を用いた造林の取組と課題について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （② 大久保達弘、9 古澤優佳／1回）（共同） ガイダンスを行う。 （② 大久保達弘／9回） 森林の育成と管理、間伐と伐採、種苗等について概説する。 （9 古澤優佳／5回） 森林の更新、広葉樹による造林、特用林産物と造林について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		森林生産学	人間と森林との共存社会において森林資源を適正に利活用していくためには、健全な森林を造成するための作業技術や軽労働化とともに、森林路網の整備や地形条件等の作業条件に応じた林業機械・伐出技術の選択など、経済的にも環境的にも調和した木材の収穫技術が重要となる。本科目では、森林作業や木材の収穫作業を合理的に進めていくための知識（森林作業の特質、林業機械とその作業方法、作業システム、原価管理、森林路網等）について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （⑤ 小山　敢、6 吉崎　明／2回）（共同） ガイダンス及びまとめを行う。 （⑤ 小山　敢／8回） 林内路網、林道整備について概説する。 （6 吉崎　明／5回） 造林保育、伐木、集材作業、原価管理等について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		森林労働安全衛生論	林業における労働災害発生率は、依然として他産業に比べて著しく高い状況が続いていることから、「労働災害ゼロ」実現のため、労働災害の防止や労働者の健康の確保及び快適な職場環境の促進を図り、森林業の安全衛生水準を向上させていく必要がある。本科目では、労働災害の防止や労働者の健康の確保及び快適な職場環境の促進など、森林業の安全衛生水準の向上に必要な労働災害の発生状況やその対策、労働安全衛生関係法令等について学ぶ。 （オムニバス形式／全8回） （⑤ 小山　敢、6 吉崎　明／2回）（共同） ガイダンスとまとめを行う。 （⑤ 小山　敢／4回） 林業労働災害の発生状況、関連法令について概説する。 （6 吉崎　明／2回） 安全作業の基本について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）

	生産理論・技術	非木材森林産品概論	多くの森林経営では木材生産を目的として、木材生産の効率化のために針葉樹の一斉植林が進められてきた。しかし、現在では持続的な森林経営が重視され、針葉樹一辺倒ではなく、広葉樹との混交林化も試みられている。さらに、近年の広葉樹への関心の高まりとともに、非木材森林産品にも関心が向けられつつある。現状でもきのこ類の生産額は木材の生産額に匹敵するほど大きい。本科目では、非木材森林産品（木材以外の森林産品：きのこ、山採り山菜、木炭等）の基礎的な知識について学ぶ。 （オムニバス形式／全8回） （④ 堀　靖人、9 古澤優佳／2回）（共同） ガイダンスとまとめを行う。 （④ 堀　靖人／3回） 竹林の利用、木炭、樹脂成分等について概説する。 （9 古澤優佳／3回） きのこや山菜の基本知識、狩猟の現状と課題について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		森林保護学	健全な森林を維持するためには適切な森林管理によって病虫獣害の発生を抑える必要がある。本科目では、森林病虫獣害の発生原因や防除方法等について学ぶ。具体的には、森林保護と樹木医学的考え方をもとに、森林全体を管理保護するために必要な知識を得る。また、自発的に森林問題を考えていくことができる人材を育成するため、講義内容の中から興味を持った部分を自習し、まとめたものをプレゼンテーション形式で発表する。 （オムニバス形式／全15回） （② 大久保達弘、9 古澤優佳／3回）（共同） ガイダンスとプレゼンテーションを行う。 （② 大久保達弘／7回） 樹木・森林の土壌環境、菌類の分類及び病害について概説する。 （9 古澤優佳／5回） 森林昆虫、野生生物と樹木・森林の被害について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		森林保全学	森林は様々な公益的機能を有しているが、森林業経営者として、侵食防止や土壌保全、水源かん養など森林の国土保全機能を理解しておく必要がある。本科目では、土砂移動の発生メカニズムとその対策、荒廃地の復元技術及び森林が持つ環境保全機能に関する知識と災害リスクの評価について学ぶ。具体的には、山地斜面で発生する土砂移動現象（表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等）、森林植生の有する表面侵食防止や表層崩壊防止の機能等について学ぶ。	
		演習林実習Ⅰ	森林管理作業では高性能林業機械をはじめ、チェーンソーや刈払機、小型移動式クレーン、フォークリフト等様々な機械を使用する。さらに、森林資源管理全般を行うためには、造林、路網計画作成、森林調査方法、きのこや山菜などの非木材森林産品の栽培等、様々な知識が必要である。本科目では、森林資源管理全般を理解するため、林業機械の基本操作、森林の調査方法、造林技術、労働安全管理など、森林資源の生産管理に関する基礎的な知識や技術について学ぶ。	共同
		測量学	森林の現況把握や資源管理、森林作業道等の路網配置、林地の境界確定や林地面積計算など、森林業経営を行う上で測量は必要不可欠な技術である。本学科では、測量手法に関する基礎的な知識について学ぶ。具体的には、測量法および公共測量の作業規程準則に準拠した測量手法について学び、また、近年用いられるようになったGPS/GNSSやUAV（無人航空機：ドローン）を利用した森林測量方法についても学ぶ。	
		森林情報学	情報技術（IT）の進展は、山村地域での活動や生活に大きなメリットをもたらしている。森林の効率的な管理には森林簿、森林基本図（地図）に加え、空中写真、マルチスペクトル画像やLiDARデータなど様々な技術で取得された測量成果を利用するが、それらを統合して収録して活用可能な森林GIS（または森林クラウド）はデータベースとして有用である。本科目では、個別のデータ取得方法の特徴や利点と、森林GISでの活用方法について理解を深め、情報技術等を森林業分野で利用するための基礎的な知識について学ぶ。	
		先端森林業技術論	近年はスマート林業の取組みや林業イノベーションが進み、AIやICTを利用した先端技術の複合化によって、造林・保育・資源管理・生産・流通の全ての段階で効率的な森林管理・運営を行い、需給予測（または木材のオンデマンド供給）に基づく収益性が高い森林業経営が求められている。本科目では、研究開発・実証・実施・普及の状況を踏まえ、森林業分野における先端技術（ICT、レーザー森林解析、ロボット等）の活用方法等について学ぶ。	

		演習林実習Ⅱ	森林資源管理を行うためには、造林、路網計画作成、森林調査方法、きのこや山菜などの非木材森林産品の栽培等、様々な知識が必要である。本科目では、演習林実習Ⅰで学んだ知識・技術を基に、森林の保護管理技術、造林技術、森林資源量調査、林内路網の作設、林産、非木材森林産品生産、林業機械など、森林資源の生産管理に関するより高度な知識や技術について学ぶ。	共同
②職業専		森林業実地体験実習	山形県内には優れた森林業事業体（森林組合、素材生産事業体、製材・木材加工事業体、きのこ生産事業体等）が複数存在し、それぞれ特色ある経営を行っている。本科目では、県内にある複数の森林業事業体を訪れ、実際に実習を体験することで優れた山形県内の森林業経営モデルに触れ、学生自身が将来就業したい業態を検討するために必要な森林業経営の現場の実態を学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （6 吉崎　明、⑥ 上野　満、9 古澤優佳／3回）（共同） ガイダンスと発表会を行う。 （6 吉崎　明／4回） 県内の優れた森林業事業体を訪問し実習を行う。 （⑥ 上野　満／4回） 県内の優れた森林業事業体を訪問し実習を行う。 （9 古澤優佳／4回） 県内の優れた森林業事業体を訪問し実習を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		木質科学概論	木材の持続的な生産と利用を実現するためには、樹木の適正な管理だけでなく、木材を生産する樹木の特徴や性質を理解する必要がある。本科目では、広葉樹、針葉樹の木質組成の違い、木材の密度と水分が木材の物理性に及ぼす影響、木材の物理的性質や化学成分、利用方法等、木材の科学的特徴や性質等に関する知識を学ぶ。	
		SDGsと農業・森林業	農林業と自然環境とが共存していくあり方を考えることは、農林業を営むうえで重要である。また、農地・森林環境は食料・木材等生産物の安定供給という生産機能のほか、人類社会の持続可能な発展や地球環境の保全等において多面的な機能を発揮している。本科目では、農業・農村の有する多面的機能、森林環境の提供しているさまざまな生態系サービスや持続可能な農業・森林業へ向けた取組の進め方を学ぶとともに、農林業生産に起因する環境問題とその対策について考え、SDGsの達成・実現に向けた農業及び森林業のあり方について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （13 胡　柏／7回） SDGsの理念と農林業、環境保全型農業、地産地消（CSA）について概説する。 （① 柴田晋吾／7回） 森林とSDGｓの関わり、SDGｓ実現のための戦略、環境を守り経済発展も目指す取組みについて概説する。 （13 胡　柏、① 柴田晋吾／1回）（共同） まとめと総括を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		国際森林業論	木材は国際的な取引商品であり、世界の木材需給の動向が直ちに日本の森林業経営に影響を及ぼす。また、地球温暖化対策や生物多様性条約、違法伐採対策といった国際的な取組みの中で、日本の木材産業、森林業のあり方も方向付けられる。そのため、グローバルな視点を持ちそれをローカルな実践に結びつけることが重要である。本科目では、世界の木材需給や貿易の動向、海外の森林業経営や木材産業の状況、地球温暖化対策や違法伐採対策といった国際的な取組みなど、海外の森林業に関する最新動向について学ぶ。 （オムニバス形式／全8回） （④ 堀　靖人、5 菅沼秀樹／2回）（共同） ガイダンスとまとめを行う。 （④ 堀　靖人／3回） 世界の森林資源と森林管理体制について概説する。 （5 菅沼秀樹／3回） 気候変動対策、チップ生産、木質バイオマス利用の世界の動向について概説する。	オムニバス形式・共同（一部）

専門科目	経営全般	木材利活用論	森林業の主要な生産物である木材は、その特性を活かして建築材料や家具など様々な用途に加工・利用されている。本科目では、木材を利用する社会的意義、日本国内のみならず海外での木材利用の特徴等について考察し、木質バイオマスを含めた木材の利用、木材の生産と加工、木材の流通等について学ぶ。	
		国際農業・森林業実習	社会や経済情勢など、日々変化する農林業を取り巻く国際情勢を機微に感じ取り、グローバルな視点で農林業経営に取り組む素養を身に付けるためには、海外での短期滞在実習を通して、海外の農業及び森林業経営の実態について理解することが重要である。本科目では、一例として、米国コロラド州立大学など海外の大学や農業地及び森林業地への短期滞在実習を通して、海外の農業及び森林業経営の実態について学ぶ。	共同
		臨地実務実習Ⅰ（生産管理等）	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた森林業事業体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた森林業事業体での実習を通じて、森林業事業体の持つ生産管理に関する知識や技術を主に学ぶ。	
		森林環境政策	森林業経営を行うにあたっては、森林・林業・環境政策や制度等に関する内容や最新動向を知っておく必要がある。本科目では、具体的に、グローバルかつ幅広い視点から、１）国内外の森林政策の歴史的な展開過程、２）森林環境管理と生態系管理の基本的な考え方、３）参加・協働の考え方と取組み事例、４）世界の森林保全問題、について理解を深めながら、国内外の森林・林業・環境に関する政策や参加・協働型の政策形成手法など持続可能な森林業の実践のための基礎的な知識について学ぶ。	
		組織マネジメント論	農業又は森林業経営者にとって、組織の持つ資源を適切に管理し、円滑に運営できることは重要なスキルの１つとなる。本科目では、組織マネジメントを実施する際に重要となる、戦略、システム、スキル、人材、スタイル、価値観等のあり方について学ぶ。また、ヒト・モノ・カネ・情報の４つの資源を有効に活用し、経営組織や地域組織の組織効率を最大限に高める手法等について学ぶ。	
		森林経営管理学	木材など林産物の供給をはじめ、水資源のかん養や国土保全など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるためには、森林の保有形態や森林の経営目的に基づいた計画的かつ長期的な視野に立った適切な森林経営、森林施業が必要となる。そのため、森林経営を支える様々な原理、技術、制度が考え出され、実施されてきた。本科目では、森林計画制度や森林経営計画に基づく持続的な森林経営管理等に関する知識について学ぶ。	
		マーケティング論	農業又は森林業経営においては、消費者に必要とされているものを知り、伝え、何を、どうやって売るのかを考えて、ものが売れる仕組みを作ることが重要となる。本科目では、マーケティング視点に立った、農林産物の販売戦略や導入戦略の立て方について学ぶ。また、農業又は森林業を起点とした新たな事業展開を図る際に必要となる、市場状況等を把握するためのマーケティングの基礎的な知識やマーケティングリサーチの手法等について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （14 吉仲　怜／9回） 戦略計画とマーケティングプロセス、マーケティングリサーチを概説する。 （10 小沢　亙／2回） 消費者市場、消費者行動について概説する。 （11 黒瀧秀久／2回） 農山村地域とマーケティングを概説する。 （14 吉仲　怜、10 小沢　亙、11 黒瀧秀久／2回）（共同） ケーススタディのまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		森林業経営分析・計画	木材は再生産可能な原料であり、それを持続的に生産し供給することで、森林業経営は循環型社会形成の上で重要な役割を果たしている。同時に、森林業経営は木材以外にも様々な公益的サービスを提供し、社会に貢献している。そのため、森林業経営は存続しつづけることが重要である。本科目では、持続可能な森林業経営が形成される過程で、それを確実にするためにどのような考え方、方法がとられてきたのか、将来にわたりどのようなことをすればよいのかなど、森林業経営の基本的な考え方と実践手法（森林資源の現状分析、森林の経営目的と指導原則、伐期、収穫規整、森林の評価など）について学ぶ。	

		税制・簿記論	経営者として、企業会計として一般的に行われている複式簿記による会計経理の手法や、基本的な税制度の内容を理解しておく必要がある。本科目では、基礎的な税（所得税(所得の種類、所得控除、税額控除、課税所得の申告方法等)、消費税(インボイスの仕組み)、法人税（益金、損金）等）の仕組みと合わせ、仕訳、勘定、簿記一巡の手続き、基本的な商品売買、試算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法など、基礎的な税の仕組みや商業の簿記原理と記帳、決算に関する初歩的な事項等について学ぶ。 （オムニバス形式／全8回） （14 吉仲　怜／4回） 勘定科目と仕訳、商品売買取引、資本取引についてを概説する。 （12 是川邦子／2回） 簿記の意義・目的・種類・基礎概念について概説する。 （14 吉仲　怜、12 是川邦子／2回）（共同） 基礎的な税の種類と仕組み、損益計算書・貸借対照表の作成を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅱ（経営管理等）	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた森林業事業体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた森林業事業体の元で実習を行い、これまで学んできた生産管理に関する知識と技術を使いながら、経営管理に関する実践的な知識や技術について主に学ぶ。	
		木材加工・販売実習	古来より、人は木材を加工して材料・建材や燃料等として利用してきた。また、装飾や工芸、美術品等においても繊細で巧みな木材加工技術が使用されてきた。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識について学ぶとともに、木工品の製作を通して木材加工と販売に関する知識や技術について学ぶ。	
		簿記各論	近年、農業及び森林業では法人形態による規模拡大が進んでいる。法人経営では個人経営に比べ、モノ、カネの動きがより複雑となることから、会計・経理状況を把握できる経営知識がより重要なものとなる。本科目では、簿記の各論として、原価、決算手続き、変動費、固定費、損益分岐点分析等について学ぶ。また、税制・簿記論で学んだ基礎的な考えを基に、さらに高度な手法を学習し、演習を通じて複式商業簿記等の記帳に関する理論と実践を学ぶ。 オムニバス形式／全8回） （14 吉仲　怜／6回） 期中取引、決算、原価、変動費、固定費、損益分岐点分析、連結会計について概説する。 （14 吉仲　怜、12 是川邦子／2回）（共同） 財務諸表及び財務諸表の作成を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		臨地実務実習Ⅲ（経営総合）	自らが将来携わりたい経営形態について深く学び、経営ビジョンを描くために、経営形態に応じマッチングした優れた森林業事業体の元で実習を受けることは非常に有意義な事である。本科目では、優れた森林業事業体での実習を通じ、これまで学んできた知識や技術を総合化し、森林業事業体における経営戦略の立案・実行に関する知識や技術について主に学ぶ。	

	地域課題解決能力	東北の森林資源管理	森林管理（造林・育林、伐採・搬出等）の現状や森林管理技術の特徴について、その地域が有する特徴と現状及び課題を把握することは重要である。本科目では、東北地方の森林業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県の森林資源管理に関する現状や関連技術の特徴を学ぶとともに、事業者の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の森林業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （6 吉崎　明／6回） 東北各県の行政・技術担当者及び森林業事業体から担当者を招聘し、森林管理現場における現状と課題及び実践事例を概説する。 （⑥ 上野　満／6回） 東北各県の行政・技術担当者及び森林業事業体から担当者を招聘し、森林管理現場における現状と課題及び実践事例を概説する。 （6 吉崎　明、⑥ 上野　満／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		東北の森林資源利活用	森林資源の利活用（木材、木質バイオマス、非木材森林産品、森林サービス産業）の現状や特徴について、その地域が有する特徴と現状及び課題を把握することは重要である。本科目では、東北地方の森林業が有する地域ポテンシャルについて理解を深めるため、東北各県の森林資源の利活用に関する現状や関連技術の特徴を学ぶとともに、事業者の実践事例等を題材として、その取組手法等から東北地方の森林業が有する地域ポテンシャルについて考察する。 （オムニバス形式／全15回） （9 古澤優佳／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び森林業事業体から担当者を招聘し、木質バイオマスや非木材森林産品の活用、森林サービス産業の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （④ 堀　靖人／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び森林業事業体から担当者を招聘し、木質バイオマスや非木材森林産品の活用、森林サービス産業の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （③ 藤本登留／4回） 東北各県の行政・技術担当者及び森林業事業体から担当者を招聘し、木質バイオマスや非木材森林産品の活用、森林サービス産業の現状と課題及び生産現場における実践事例を概説する。 （9 古澤優佳、④ 堀　靖人、③ 藤本登留／3回）（共同） ガイダンス、グループワークによる発表を行う。	オムニバス形式・共同（一部）

		農山村活性化論	農山村地域は、過疎化や高齢化、それに伴う耕作放棄地の増加など、様々な課題に直面している。農山村の特徴を活かしながら、持続可能な農業又は森林業や地域のあり方を考えるためには、生産者や経営者としての視点だけでなく、生活者である地域住民の視点で物事を考えていく必要がある。本科目は、同時期に開講する「農山村活性化論演習」の学びとともに、農山村の生活や地域社会の現状及びこれらを取り巻く課題を理解し、「内発的発展論」を踏まえてその改善や解決に向けた対応と手法について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （11 黒瀧秀久／3回） ガイダンス、国土政策と農山村、地域政策・活性化政策について概説する。 （10 小沢　亙／1回） 中山間地域直接支払制度と地域農政について概説する。 （13 胡　柏／2回） 農山村と土地問題、地域創生について概説する。 （12 是川邦子／3回） 「内発的発展」の理論と農産資源を活かしたコミュニティの再生」と人づくりについて概説する。 （14 吉仲　怜／2回） 農山村の衰退と過疎化について概説する。 （11 黒瀧秀久、10 小沢　亙、13 胡　柏、12 是川邦子、14 吉仲怜／4回）（共同） 農山村、地域社会の現状と課題について、解決に向けた取り組みについて事例紹介を通じて概説する。	オムニバス形式・共同（一部）
		農山村活性化論演習	農山村の特徴を活かしながら、持続可能な農業又は森林業や地域のあり方を考えるためには、生産者や経営者としての視点だけでなく、生活者である地域住民の視点で物事を考えていく必要がある。本科目では、同時期に開講する「農山村活性化論」の学びと連携し、４～８名程度の演習グループで山形県内の農山村集落を訪問し、地域住民と交流する。農山村集落でのワークショップ等のフィールドワークにより地域活性化の実践的手法等について学修する。	共同
		森林生態系サービス保全利用論	農林業において、生態系（自然）を利用しながら農林産物を生産する過程で、様々な財やサービスが提供され、これらのサービスのことを生態系サービスと呼んでいる。持続可能な社会、循環型社会の形成のためには、森林生態系の保全による生態系サービスの持続的な提供が不可欠である。このため本科目では、まず生態系サービスを4種類に分けて、森林生態系サービスビジネスに関する基礎的な知識について学ぶ。さらに、生態系サービスの維持増進を図り、観光産業、教育産業、健康産業をはじめとした他分野との融合を図ることで、新たなビジネスの創設などへの展開を図るため、生態系サービスへの支払い（PES）の知識について学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （④ 堀　靖人／9 回） 生態系サービスの種類、森林による生態系サービス供給等について概説する。 （① 柴田晋吾／6回） 生態系サービスへの支払い、森林サービス産業、生態系サービスビジネスの展開等について概説する。	オムニバス形式

		森林生態系サービス保全利用論演習	農林業において、生態系（自然）を利用しながら農林産物を生産する過程で、様々な財やサービスが提供され、これらのサービスのことを生態系サービスと呼んでいる。持続可能な社会、循環型社会の形成のためには、森林生態系の保全による生態系サービスの持続的な提供が不可欠である。このため本科目では、講義と連携した演習とし、観光産業、教育産業、健康産業をはじめとした他分野との融合等、国内外の森林生態系サービスビジネスに関する展開事例を題材とし、新たなビジネスの創出に向けた展開方法や課題等について考察する。 （オムニバス形式／全15回） （④ 堀　靖人／9 回） 身近な自然物の生態系サービスについて概説する。また、フィールド調査の実施と結果の取りまとめ、プレゼンテーションを行う。 （① 柴田晋吾／4回） フィールド調査の実施と結果の取りまとめ、プレゼンテーションを行う。。 （① 柴田晋吾、④ 堀　靖人／2回） 成果の報告とディスカーションを行う。	オムニバス形式・共同（一部）
		デザイン論	人が何らかの目的を持ち、何かを生み出す際に、どのように形にするか計画するのが企画であり、形に表すことがデザインである。本科目では、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、ニーズをアレンジし、アイデアをプランニングし、「かたち」にするプロセスや企画力に関する基礎的な知識について学ぶ。具体的には、人の幸せのためにというデザイン・企画の本質（原点）をおさえながら、現代の市場の問題を考え、これからの社会に通用する・生活者から共感される企画力（課題からアイデア、アイデアを企画へ）の基本を学ぶ。	隔年
		金融論	金融とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することをいう。経営者が自らの事業を実施、継続し、さらに新規事業を展開するためには、金融機関等からの融資を受けることが想定され、金融に関する理解を深めることは経営上重要である。本科目では、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる金融制度について学ぶ。具体的には、企業金融や銀行の役割、外国為替相場など金融に関する基礎的な知識について学ぶ。	隔年
		発酵学・醸造学	発酵は漬物、酒等の食品製造分野以外にもバイオマス燃料や医薬など我々の生活に深く根付いている。本科目では、酵素や微生物を活用した農林産物加工品の製造のみならず、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、発酵食品・醸造品の発酵技術や活用等について学ぶ。具体的には、パン、醸造酒、蒸留酒、調味料、チーズ他、様々な発酵食品・醸造品について、酵母や乳酸菌の利用等の発酵・醸造に関する基礎的な製法等を学び、発酵食品・醸造品の歴史、地域、製法、活用について学修を進めていく。さらに、発酵食品・醸造品の栄養性・機能性について理解を深め、プロバイオティクスなど新しい考え方も学ぶ。 （オムニバス形式／全15回） （26 藤井　力、32 渡部　潤／1回）（共同） 初回の講義時にガイダンスを行う。 （26 藤井　力／7回） 主に酵母を利用した発酵食品について概説する。 （32 渡部　潤／7回） 主に発酵調味料と乳酸菌を利用した食品について概説する。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		建築学	日本では古代から建築に木材が用いられている。現代では、木以外の様々な素材や構法が用いられるようになっているが、木という材質特性がもたらす様々なメリットから、建築における木材利用が改めて注目されている。本科目では、建築業界と連携した、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる木造建築の構造特性、新たな木質構造技術等について学ぶ。また、木造建築の歴史からその構法、様々な木材利用方法について学ぶ。	隔年

③展開科目	応用的・創造的能力	社会福祉論	社会福祉とは、障がい者や高齢者等の社会的弱者の生活の安定と充足を公的に達成しようとすることであり、社会に暮らす一人ひとりが幸せに生きる上で不可欠なものである。本科目では、農(林)福連携など、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる社会福祉の基本理念や社会福祉制度等を学ぶ。具体的には、最初に社会福祉の歴史について学び、さらに現在の家族、地域社会の動向や変化を踏まえ、様々な社会問題と社会福祉の関連性を考察する。 （オムニバス形式／全15回） （22 下村美保／7回） ガイダンスの実施及び、社会福祉の歴史、地域社会の変化について概説する。 （23 髙梨友也／7回） 社会問題と社会福祉の関連性、保障制度について概説する。 （22 下村美保、23 髙梨友也／1回）（共同） 講義のまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		栄養学	栄養学は、食べ物とその成分である栄養素が生物の中でどのような役割を持つかを研究する学問である。本科目では、機能性表示食品など、農林業の生産技術等と融合・展開することで新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる、食と栄養等の基礎的な知識について学ぶ。具体的には、栄養と健康の関係や、食品成分表を使った栄養計算、機能性表示食品の概要等を学ぶ。さらに、健康と栄養の観点から、農林産物を新たに活用する手法とその課題について学ぶ。	隔年
		山形・東北観光学	観光とは、他の国や地域を訪れ、風景、史跡、風土等を見聞したり体験することであり、観光学とは、観光に関する諸事情を研究する学問である。観光は文化的交流、地域の活性化、地域の魅力発見等にも繋がりうることから、農山村地域の資源等を活用した新たな事業展開が期待される。本科目では、農山村地域の資源等を活用した、農林業の生産技術等と融合・展開することで、新たな事業展開を図るための柔軟な発想や応用力を身に付けるために必要となる山形・東北の観光資源と、それに留まらない交流人口の捉え方や、発地型観光と着地型観光等を学ぶ。	隔年
		デザイン論演習	人が何らかの目的を持ち、何かを生み出す際に、どのように形にするか計画するのが企画であり、形に表すことがデザインである。また、デザイン・企画の本質は人の幸せのために行うことである。本科目では、講義と連携した演習とし、企業や団体、地域のブランドやマーケティング戦略・商品開発事例等を題材として、発想、企画構成などについて考察する。具体的には、個人ワークとグループワークにより、実際に地域のクライアント等の協力のもと、よりリアルに企画を考え（共感、問題発見、マーケティング・リサーチ・分析、アイデア、企画・コンセプト等)、プレゼンテーションまでを行う。	隔年
		金融論演習	金融とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することをいう。農林業経営者が自らの事業を実施、継続し、さらに新規事業を展開するためには、金融機関等からの融資を受けることが想定され、金融に関する理解を深めることは経営上重要である。本科目では、最初に資金調達や貸出判断、為替相場、貿易金融取引等について解説した後、講義と連携した演習とし資金調達や貿易金融等の事例を題材として、その課題等について考察する。	隔年
		発酵学・醸造学演習	発酵は漬物、酒等の食品製造分野のみならず、バイオマス燃料や医薬品製造など様々な分野で活用されている。本科目では、発酵・醸造食品とその利用による付加価値向上について理解するとともに、大学で求められる、自分で調べること、他の人に説明すること、他の人の発表を聞いて要点をまとめること等の慣れや習得を目指す。また、講義と連携した演習とし、微生物利用による原材料の高付加価値化や発酵食品の展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。 （オムニバス形式／全15回） （26 藤井　力／7回） 主に酵母を利用した発酵食品の事例研究と事例を発表する。 （32 渡部　潤／8回） 主に乳酸菌、麹菌を利用した発酵食品とブランド化事例について発表する。	オムニバス形式 隔年

		建築学演習	木という材質特性がもたらす様々なメリットから、建築における木材利用が改めて注目されている。本科目では、講義と連携した演習とし、基礎的な構造設計図書の見方や構造計算の方法、木材の実践的な活用法や劣化等について考察する。まず建物を理解するための、事例調査や実測を行い、図面の見方を理解すると共に、その基礎的な表し方を学ぶ。また、木材をはじめとする仕上げ材料の用い方や、その劣化などを実習的に学ぶ。さらに、構造力学の基礎を学修し、部材に生じる力や応力を理解すると共に、それを踏まえた部材の断面設計方法や構造計算方法を学ぶ。最終的には、木の特性を活かした木造架構を提案する。	隔年
		社会福祉論演習	社会福祉とは、障がい者や高齢者等の社会的弱者の生活の安定と充足を公的に達成しようとすることであり、社会に暮らす一人ひとりが幸せに生きる上で不可欠なものである。本科目では、まずは就業者不足問題とそれに対応した福祉的就労、生活困窮者の就労支援、高齢者の生きがい支援等について学ぶ。また、講義と連携した演習とし、様々な産業分野と福祉分野との展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。 （オムニバス形式／全15回） （22 下村美保／7回） 就業者不足問題、福祉的就労、生活困窮者の就労支援、高齢者の生きがい支援、地域社会の変化について概説した後、事例分析、検討し、発表する。 （23髙梨友也／7回） 農林業生産分野と福祉分野の連携について事例分析、検討し、発表する。 （22 下村美保、23 髙梨友也／1回）（共同） 講義のまとめを行う。	オムニバス形式・共同（一部） 隔年
		栄養学演習	農林産物に含まれる栄養素について学ぶことで、農林産物を活用した事業展開の基礎となるだけでなく、機能性表示食品の開発など医療分野等との連携など新たな事業展開が期待される。本科目では、栄養・健康に関する情報の正しい伝え方について学ぶとともに、講義と連携した演習とし、栄養や栄養素に着目した商品事例を題材として、その商品化に向けた展開手法や課題等について考察する。	隔年
		山形・東北観光学演習	観光とは、他の国や地域を訪れ、風景、史跡、風土等を見聞したり体験することであり、観光学とは、観光に関する諸事情を研究する学問である。観光は文化的交流、地域の活性化、地域の魅力発見等にも繋がりうることから、農山村地域の資源等を活用した新たな事業展開が期待される。本科目では、講義と連携した演習とし、農山村地域の資源等を活用した観光分野との展開事例を題材として、その実践的な展開手法や課題等について考察する。	隔年
④総合科目	総合的能力	経営分析・計画演習	臨地実務実習先における課題解決を図るため、現在の経営上・生産技術上の課題を抽出、整理し、解決を図り、今後の経営戦略の展開方向について分析・考察する。本科目では、「森林資源管理」「森林資源利活用」の２分野の所属グループに分かれ、学生、指導教員及び臨地実務実習の受入先の３者で調整のうえ、臨地実務実習先における課題解決と経営展開方向に関する研究テーマを設定する。４年次の臨地実務実習先の森林業経営を題材とした研究テーマに取組み、森林の資源管理や森林資源の利活用に関する実践的課題について分析・考察し卒業論文として取りまとめる。	共同

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
3　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

山形県　設置認可等に関わる組織の移行表

令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員
山形県立農林大学校			
養成部	60	―	120
計	60	―	120

令和６年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東北農林専門職大学				専門職大学新設
農林業経営学部		３年次		
農業経営学科	32	2	132	
森林業経営学科	8	2	36	
		３年次		
計	40	4	168	
東北農林専門職大学 附属農林大学校				名称変更
養成部	40	―	80	定員変更（△20）
計	40	―	80	